

ANABUKI COMMUNITY PRESS

穴吹コミュニティ情報紙

『アナブキ・コミュニティ・プレス』

2016 9月

編集・発行 / 株式会社 穴吹コミュニティ「アナブキ・コミュニティ・プレス」編集室 〒760-0071 香川県高松市藤塚町1-11-22 穴吹工務店本社ビル7階 ☎0120-365-384(穴吹コンタクトセンター)

第63号

Vol. 63

CONTENTS

- 巻頭特集インタビュー▷ 農家屋敷宮本家 十二代目当主 大相撲・元幕内力士 剣武 輝希(つるぎだけてるぎ) 宮本 一輝 / 1~3
- マンションバリューアップ 『 / 4
- ときめき野菜～春夏秋冬～ 『かぼちゃ』 / 6
- 編集部おすすめ秋旅プラン 『さいたま秩父・川越』 / 7~10
- 【四季を遊ぶ】 『 / 12
- 自分らしく暮らす部屋づくり 『着こなしを変える』 / 13
- マンションライフのコミュニケーション術 / 14
- 読者の広場 / 15・16
- 読者プレゼント / 15



Miyamoto Kazuteru INTERVIEW

photo : 川岸 滋

相撲と同様、お客さま一組一組を大切に、おもてなしには日々全力を尽くしています。

巻頭インタビュー

農家屋敷宮本家十二代目当主 大相撲・元幕内力士 剣武 輝希(つるぎだけてるぎ)

宮本 一輝

大相撲の力士をしていた経験は、旅館当主の仕事にも活かしています。

宮本さんは現在、埼玉県の秩父で『農家屋敷宮本家』という旅館の当主を務められていらっしゃいます。そのお屋敷は200年以上の歴史があるそうですね。宮本さんは何代目当主になれるのでしょうか。

宮本家がここに家を構えて約250年になります。当主としては、私で12代目ですね。旅館をはじめたのは父の代の頃からです。

その昔、旅籠でも何でもない農家屋敷だった我が家に、巡礼の人や絹などを運んでいた旅人が一夜の宿に求め訪ねることが多かったそうです。「他にも屋敷がある中で、何故かうちにばかり泊まりに来る」と祖父から聞いた父が「じゃあ旅館にしよう」と始めたのがきっかけだそうです。

秩父は確か絹織物の銘産地でしたね。

そうですね。昔から養蚕がとても盛んで「秩父銘仙」と呼ばれる有名な絹織物があります。40年ぐらいい前、旅館を始めた頃にやめました。うちでも別棟の母屋の2階で養蚕をやっていました。ですから、当館の部屋の名前には『桑の間』『絹の間』『繭の間』『とど芽の間』など、養蚕に

ちなんだ名前がついたお部屋もあります。

宮本さんはとても恰幅の良いお姿でいらっしゃるのですが、旅館の当主になる前は、大相撲の力士だったと伺いました。

はい。『剣武 輝希(つるぎだけてるぎ)』というご名で、幕内力士を務めておりました。

角界はとても厳しい世界だと聞いたことがあります。力士時代の話を聞かせください。

確かに角界は厳しかったです。自分に対しての甘えを絶対許してくれない環境でした。しかし、それを克服しなければ角界での出世、つまり関取への昇進はできないとも感じました。

私は高校、大学の学生時代には相撲部に所属し相撲を取っていました。それがスカウトされて大相撲の力士になり、プロの世界に飛び込んだのですが、やはりアマチュアとプロの差は格段にありましたね。稽古内容の厳しさはもちろんですが、少々体調が悪くても毎日の稽古を休むことは許されませんでした。学生の頃は気分によって「今日は

この辺で切り上げよう」ということもありました。プロはそういう甘えを絶対許されない世界でしたね。

そこまで徹底しないと、強くなれないからでしょうか。

それもあります。しかしプロの力士ともなると背負うものがアマとは違うんですよ。それが仕事で生活もかかっていますし、関取に昇進すると後援者や後援会もできます。

『郷土力士』という言葉があります。が、やはり地元の方の応援や支援は野球やサッカーの選手に対する以上に熱心ですから。

力士は誰しも「声援してください。方のためにも必ず勝つんだ」という気持ちが強くなります。

宮本さんの場合は、秩父の方の熱い声援を受けてこられたのでしょうか。

そうですね。一揃い数百万円もする高価な化粧まわしなど、地元の皆さんがお金を集めて贈呈してくださりました。応援もとても熱くて、私自身「簡単に相撲は辞められない。もっと強くならなくては」という思いが自然に湧いてきましたね。

